

全酪連会報 12

2020 DEC No.663

若手後継者の本音／戸澤慧さん

酪農部だより／本会“ゴードチーズ”の製造拠点が変わります！

購買生産指導部だより／日本版酪農標準作業手順書「デリーナVi」のご紹介

日本酪農見て歩紀／外処牧場(群馬県高崎市)

酪農トピックス／【全国農協乳業協会】「令和2年度秋季研修会」及び
「販売担当者情報交換会」の開催（本所）ほか

栄えある秋の叙勲・褒章



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/caltop/



全国酪農業協同組合連合会

トラクターに憧れて

慧さんは、北海道立農業大学校（本別）を卒業後、20歳で実家に就農されて今年で5年目になります。小さい頃から乗り物や機械が好きで、大きな農機を操るお父様の姿に憧れて就農を決めたそうです。また、4人兄弟のうち慧さんの弟さんも酪農を志し、現在別の農場で従業員をしているそうです。ご両親が魅力ある酪農経営をなさっていたのを感じました。

「幼少期から牛舎で遊んだり手伝ったり働く両親の姿を見て、中学生の時には将来は酪農家になろうと決めて農業高校、農業大学校に進みました。牛も好きでしたが、父親がトラクターや大型農機で仕事をしている姿に憧れていたことが、酪農をやってみたくと思った一番のきっかけかもしれません。



戸澤慧さん・奈々瀬さんご夫妻

今回は、北海道枝幸郡枝幸町戸澤牧場の戸澤慧さんにお話を伺いました。

ん。就農後、仕事として酪農を始めるまで、知らなかったことや、苦労することもありましたが、憧れていた農機に乗れて嬉しかったです。今では一通りの作業ができるようになり、酪農経営が少しずつ分かってきました。」

快適な牛舎でやる気アップ

搾乳牛舎は16年前に建設された80頭規模のつなぎ牛舎で、当時より自動給餌機を導入しています。育成牛は生後6か月程で地域の育成牧場へ預託していますが、近年預託希望者が増え、全頭預けることが難しくなってきました。そこで、今年度50頭規模の牛舎を新設しました。

「搾乳牛舎は目立った老朽化はありませんが、気温があがる夏場を中心に害虫（ハエ）が発生します。その対策で、隔週に1回、業者に委託して害虫駆除を行っています。くん煙式で牛には害がないことから移動させる手間もなく、夏場の繁忙期でも業者が行ってくれるので、手間もかかりません。牛舎の快適性が目に見えて上がり、肺炎など害虫による病気が減ったと思います。人間にとつての労働環境が向上したことも大きい効果です。また、先月育成牛舎が完成しました。現在はおおよそ20頭の育成牛を地域の預託牧場へ預託していますが、受入頭数に上限があることから、自家育成メインで少しずつ増頭していくつもりです。新牛舎の半分は乾乳牛のスペースとしているため、現

在搾乳牛舎にいる乾乳牛を移動し、搾乳牛を牛舎満度の80頭にすることが目の前の目標です。搾乳・育成牛舎が快適になり、頑張つて働くと言つて気持ちになります。」

牧草作業の効率化が課題

現在の労働力は慧さんとご両親の3名で、休日取得時にはヘルパーを利用して無理のない家族経営を続けておられます。ご両親もご健在で、経営を引き継ぐのはまだ先のことになるそうですが、将来のために機械化・効率化を進めていくことを考えているそうです。

「両親は今のところ元気に働いてくれています。65歳が引退の一区切りかなと考えています。それまでに、その後の自分たちの酪農経営について家族と話し合いたいと思います。搾乳牛舎には自動給餌機に加えて、今年餌寄せロボットを導入したことで省力化が進み、時間にゆとりができました。フリーストールへの憧れはありますが、つなぎは個体管理がしやすいメリットがあるので、当面はこの牛舎を大切に使用したいと思います。課



害虫のいない清潔な搾乳牛舎

若手後継者の 本音

Vol.47



自動給餌機



自動エサ寄せ機により1日6～7回の
餌寄せ作業が省力化された



広々として屋根が高く、快適な新育成牛舎



【経営概況】

所 属 宗谷南農業協同組合(向井地信之代表理事組合長)
家族構成 戸澤慧さん、奥様の奈々瀬さん、ご両親の靖さん、宏美さん
飼養頭数 経産牛80頭 育成牛20頭

作業預託に頼らない 安定した経営を目指して

題と考えているのは収穫作業です。枝幸町にはTMRセンターがなく、コントラ業者に作業が集中してしまつたため、繁忙期は依頼どおりに収穫が行えないことがあります。現在は畑の更新・堆肥散布などをコントラ業者に依頼していますが、できるだけ自分たちが主体となつて、収穫作業を効率化していきたいです。そのため、機械の更新・大型化も視野に入れて計画を立てていかなければならないと考えています。」

牛を健康に長く飼いたい

「これまで両親が安定した経営を続けてきてくれたことに感謝しています。今後は、繁殖成績の向上が大きな目標です。現在は、繁殖管理台帳と2週間に1度の検診で管理していますが、発情が弱かったり、なかなか受胎しない牛が多いと感じています。不受胎が続けば廃用としていますが、後継牛を確保しなくてはならないので、もっと産次数を増やしたいと思っています。牧草の適期収穫、

サイレージの調整、配合飼料の見直しも含めて、牛を健康に、長く飼うことを意識していきたいと思っています。うちの牧場には、かつて12才で10産して、自分の足で牛舎を後にした牛がいました。そのような牛をたくさん作っていきたくと思っています。そしてゆとりのある安定した家族経営を続けていきたいと思っています。」

最後に

奥様の奈々瀬さんは隣町の雄武町ご出身で、地元農協職員でしたが、ご結婚を機に就農しました。農業未経験でしたが「お付き合いました人が農家だったので、牛や農作業に抵抗はなかったとおっしゃっていました。週末を中心に仕事を手伝い、ご結婚された時にはすでに一通りの作業を覚えていたそうです。11月にお子さんを、ご出産予定のことですが(取材時は10月)、夏までは牛舎作業を行っていたと聞いて驚きました。将来については「まだ(方向性など)詳しいことは分からないけれど、やる」と決めたら旦那と一緒に頑張ります」とのこと。とても素敵なお夫妻でした。戸澤牧場の皆様がこれからもご健康で、また元気な赤ちゃんが生まれることを願っております。

全国の若手後継者に向けて一言

「今年に入ってから、コロナウイルスの影響で牛乳の消費が不安定になったり、個体販売の価格が低下したりと、厳しい状況が続きますが、これに負けず、力を合わせて一緒に頑張りたいです。」

生産開始から50年、
新生酪農(株)栃木工場での製造委託開始へ



昭和46年3月に国内の農協プラントが製造する初めてのナチュラルチーズとして世に出た。これまでに49年もの間、本会北福岡工場で製造し続けて参りました。みちのくゴードチーズですが、製造設備の老朽化や工場を取り巻く環境の変化に対応するべく、このたびチーズ製造設備を新設する新生酪農(株)と技術提携・協業し、同社栃木工場に製造委託することで生産することとなりました。

今回の製造拠点の変更に伴い、本会で培ってきた生産技術や管理方法などの様々な技術と経験が円滑に継承できるよう、製造現場においては製造技術者による技術研修が実施され、また、本会北福岡工場から新生酪農(株)に一部移管される製造設備の移設作業に向けた準備などが着々と進められております。

これらの作業が完了し、新たに製造されたチーズが熟成し発売開始される令和3年秋には、同社で加工された新たな「全酪ブランド」のゴードチーズが会員の皆様をはじめとした消費者にお届けすることが出来る予定です。

初生産から50年の節目となる来年、国産かつ独自性のあるチーズを確実にお届けし続けることで、今後も「国産ナチュラルチーズ」の振興を進め、酪農生産者と消費生活者の満足を繋げられるよう努めて参ります。

また、北福岡工場では引き続き脱脂粉乳・バターを中心とした生乳処理を継続し需給調整に貢献してまいります。今後とも変わらぬご愛顧を何卒よろしくお願い申し上げます！



日本版酪農標準作業手順書

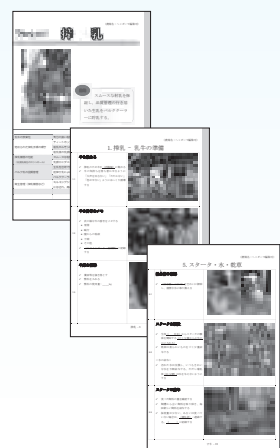
「デイリーNavi」のご紹介

「デイリーNavi」とは？

乳牛というのは非常に習慣性の強い動物で、いつでも同じ管理をされることを好みます。従って牧場での作業体系もなるべくいつも同じ手順・方法で管理することが大切です。しかし、同じやり方で仕事をしているつもりでも、管理者によってその手順や時間、量などが微妙に違ってしまい、それに気が付かないという状況はともよくあることです。たくさんさんの従業員がいる大きな牧場はもとより、家族経営でも家族間の意思疎通や作業手順の差があることで、その結果、生産性にバラつきが生じてしまうのです。

また、多くの従業員を抱える牧場では、新人の従業員さんや、外国人実習生などに仕事を覚えてもらうことに苦勞されている酪農経営者の方も多いのではないのでしょうか？

作業にあたる人が変わっても、その手順が明確で分かりやすく示したものが準備されていれば、その手順を守って作業を行うことで、人による管理のバラつきは少なくなります。また、同時に安全で効率的に作業を進めることができます。このような作業の手順をまとめたものを「標準作業手順書（SOP: Standard Operating Procedures）」と呼び、生産現場において効率的な作業を行う上で非常に頼もしいツールとなり得ます。と



はいえ、牧場での作業は多岐にわたり、それぞれの作業について、何もないところから一つひとつ作業標準を決めていくことはなかなか大変な作業です。

「デイリーNavi」は、多くの牧場で共通する8項目の作業について、それらの作業のスタンダードな手法や推奨される方法を取りまとめ、誰にでも分かりやすいように写真や簡単な文章でその作業内容を説明したもので、それぞれの牧場で準備するSOPのひな型となるものです。Word文書ファイルの形式で作成されていますので、自宅のパソコンで簡単に、それぞれの牧場の状況にあつた形に編集することが可能です。また、どなたでも専用のダウンロードページ（アカウン ト登録制）から無料で簡単に手に入れることができます。

デイリーNaviの使い方

◎下記の専用ホームページからアカウント登録をすると、ファイルのダウンロードが可能となります。ファイルはWord文書形式です。ダウンロード・利用は無料です。

◎全8章（①搾乳②子牛③分娩④乾乳⑤繁殖⑥飼料／水⑦蹄⑧農場衛生）で構成されています。それぞれの章に対応する基本的な作業手順例や決めるべきポイントが用意され

ていますので、酪農場の実情に沿って記載内容を検討し、自身の酪農場の標準作業手順書を作成してください。内容の加筆修正や写真の差し替えは自由です。

「デイリーNavi」の活用にあたって

◎「デイリーNavi」の著作権は釧路農業協同組合連合会、ホクレン農業協同組合連合会、全国酪農業協同組合連合会（全酪連）が有しています。3団体が生産現場の生産性向上に寄与することを目的としてご提供するものです。

◎「デイリーNavi」はデンマークのSEGES（農業アドバイザーサービス）が発行する酪農作業SOPを参考に日本の酪農場の実情に応じて編集・作成されています。尚、SEGESの酪農SOPについては、日本での使用権利は運営する3団体が所有しています。

◎「デイリーNavi」は上記目的に沿う限り、各牧場の実情に応じて自由に利用することができます。但し商用目的での利用は出来ません。

デイリーNaviダウンロードHP

<http://946nokyoren.or.jp/dairynavi/>

DailyNavi



見えて来た
紀

No. 330

外処牧場
群馬県高崎市都市化と
共に歩んだ酪農

地域の概要

今回訪問した外処牧場がある群馬県高崎市は、群馬県中南部に位置する商工業都市として中核市に指定されています。各県に繋がる国道、高速道路、新幹線の分岐点でもあり、全国有数の交通拠点都市です。また平成の大合併により広大な市域となり、群馬県内では最大の人口を擁するため、市内では様々な都市集客施設建設などの再開発事業が進んでいます。海岸より100 km以上離れた内陸に位置し、中心市街地の標高は97・1 mと低いですが、同じ市内でも市の北部及び西部には標高1,000 m以上の地点も存在し、標高差が1,630 mとなる場所もあります。年間平均気温は13・6℃ですが、夏の日中は気温が非常に高く、冬は西北西の乾燥した季節風で降水量は少ないため、朝晩と日中の

気温差が大きい地域もあります。特産品のだるまは、全国シェア80%で日本一の産地であり、梅の生産高は全国2位となっています。



群馬県高崎市



▲ 外処道男さん・光代さん夫妻



▲ 牛舎外観



▲搾乳牛舎内部

牧場の概要

外処牧場が所属する榛名酪農業協同組合連合会（保坂孝和代表理事会長）は、酪農家戸数23戸、生乳出荷数量約9,100t（2019年度）となっています。

外処牧場の仕事は、ご主人の道男さんと奥様の光代さんご夫婦で作業をされています。飼養頭数は経産

牛約30頭、育成牛約11頭（内、4頭は群馬県浅間育成牧場に預託）で、約4ha自給飼料生産を行なっております。現在は榛名酪農業協同組合連合会の生産者理事と高崎市酪農繁殖和牛組合長を兼任されています。

元々野菜農家でしたが、祖父が牛を1頭購入したことが、酪農を始めるきっかけとなりました。幼少期には牛の世話をしてから学校へ向かう

など酪農が身近となり

り、北海道の酪農学園大学を卒業後、就農されました。就農と同時に別の場所に24頭規模の牛舎を新築されましたが、ここから牛舎を2回建て替えるとは思ってもみなかったとのことです。就農して軌道に乗ったのも束の間、7年後の昭和60年にパイプラインの改修工事中に火災となり、牛舎が全焼し、飼養頭数が半分となりました。当時の外処さんは30歳前半であり、発展途上であった高崎市も

様々な仕事があり、酪農を続けるか他業種へ転職されるか、とても迷ったそうです。それでも酪農を諦めきれず、新たに木造牛舎を建築し、酪農を再開されました。その後、周辺にも住宅が増える中、大型病院が隣接された影響もあり、平成15年に現在の場所へ移動し、40頭牛舎を新築されました。



▲大型病院隣接時の牛舎(当時)

自宅から車で15分離れた場所にある牛舎は40頭対尻式の繋ぎ牛舎です。2tのバルククーラー、ストロングパイプラインミルカー、バンクリーナー、牛床マット、ミストファン、自動給餌機、監視カメラを取り入れています。給与内容は主に、飼料稲

ルーサン、オーツヘイ、デントコーンサイレージ、イタリアンロール牧草、配合を使用されています。



▲自動給餌機

都市化が進む環境での酪農

前述の通り、高崎市の人口が増加するにつれて、外処牧場の周辺環境も大きく変化しました。牛舎の隣は他の土地であるため運動場の堆肥が流れて注意を受けたり、道路が拡張されて交通量が増えた時には、トラクターでの糞出しや配合の配送で苦労されたそうです。特に大型病院が隣接されていた頃は、臭いに関して意見を言われることもあり、酪農を続けるため移転されたとのことでした。移転すると環境変化のせいか牛

の体調も悪くなり、思うような酪農がやりづらくなったそうです。

意外と感じたのが人による災害です。自給飼料の畑に不法投棄が多く、ワイヤーが捨てられていた時はハーベスターが壊れたり、子供達がラップサイロやスタッグサイロの上で遊んで穴を開けられるような事もあったそうです。

また自宅から離れているため、分娩事故などの繁殖管理も悩みの種でした。そこで榛名酪連の診療事業を利用し、繁殖管理（検診・授精・治療）を一任されています。牛を見な



▲ ラップサイロ

がら授精する種を選定したり、治療を行なうなど、親身になって考えてくれるので、熱心な態度ほど信頼が持てる、外処さんはおっしゃっていました。

自給飼料生産の取組

外処牧場周辺の耕作地は全て借地（農業経営基盤強化促進法に係る利用権設定による補助金を活用）であり、コーンサイレージとイタリアン牧草を約4ha作付されています。完熟した堆肥をしっかりと入れて数年に1回プラウをかけています。現在は一人で作業されているため、各畑で播種日の間隔を空けて作付されています。10年前まではスタッグサイロやベコフレンドというFRP製の高さ約3mほどある大きな容器に入れてサイレージ作りをされていました。しかしスタッグサイロは品質が不安定で、ベコフレンドは排出口が狭いため腰を痛めてしまったとのことでした。また、畑から牛舎までの道中は交通量も多いので、ダンブでサイロを積んで運ぶのが容易ではなかったそうです。そこで環境面と交通面を考えて、細断型ロールベラーとラッピングマシンを購入して

収穫作業は2人で行ない、ラップサイロでの給与を採用しました。牛舎近辺で機材を置けるスペースに限りがありました。牛が良くなる手段としては、非常に効果的であり、道路上にも落とす心配がないので精神的にも楽とおっしゃっていました。

平成14年に飼料稲組合を周辺農家と立ち上げ、農協の幹旋で飼料稲の刈取とラップ梱包を行なっていました。当時は牛舎から遠い場所でも20ha管理（ラップで1,000個）しており、他の自給飼料との作業も重なり、苦勞する部分もあったそうです。飼料稲は品種や刈取時期によって大きく嗜好性が変わるため、試行錯誤しながらも自給飼料主体の飼養管理を重視して続けたそうです。現在は業者へ委託しておりますが、高品質の飼料稲を給与されています。

終わりに

限られた状況の中で自動給餌機などを導入し、省力化を取り入れた酪農をされている外処さん。影響を受けた酪農家が身近にいたからこそ、様々な事があっても酪農を続けられたそうです。安定した酪農経営を継

続させることは難しくもあり、やりがいを感じるのだそうです。

今回の原稿を作成するにあたり、お忙しい中時間を割いていただき本当にありがとうございます。住心地や交通量が多い中で酪農を続ける事は、とても大変な事であると改めて学びました。外処牧場の更なる飛躍を祈念しまして、今後も本会としても支援、協力していきたいと思えます。



▲ 交通量の多い牛舎前

本所発

【全国農協乳業協会】 「令和2年度秋季研修会」及び「販売担当者情報交換会」の開催

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、秋季研修会及び販売担当者情報交換会を開催いたしました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初めてのオンライン研修会といたしました。

〈秋季研修会（令和2年10月30日開催）〉

今年度は、中国四国九州地域農協乳業協議会と共催し、秋季研修会を開催いたしました。

テーマは、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課



農林水産省生産局畜産部
牛乳乳製品課乳業班課長補佐
武久智之氏

乳業班課長補佐 武久智之氏を講師に「新型コロナウイルス感染者発生時の対応・業務継続に関するガイドラインについて」、及びSOMPO リスクマネジメント株式会社 徳本諒氏を講師に「新型コロナ

ウイルス流行を踏まえた感染症 BCP」と題し講演をいただきました。

参加者は北海道から九州まで29事業者53名（申込人数）で、モニター越しに複数名参加してい

ることも確認でき、一般的な新型コロナウイルス流行時においても事業継続するために日頃から意識されていることを感じました。

参加者から農林水産省講演については「ガイドラインについて改めて確認ができてよかった」「本会で取り組んでいるコロナ感染予防策が間違いでなかったことが再確認できた」との感想や、SOMPO リスクマネジメント株式会社講演については、「在宅勤務ができてにくい業種である為、特に製造面でのマニュアル強化が必要である」や「クラスターが発生してしまったことを想定した事前の準備が大切であることが分かりました」などの感想が寄せられました。



SOMPO リスクマネジメント株式会社
徳本諒氏

〈販売担当者情報交換会（令和2年11月12日開催）〉

例年大阪市内で開催していましたが、今年度はオンラインで15会員30名の参加を得て開催いたしました。

冒頭事務局より情報提供として「最近の酪農乳業情勢について」と題し、当協会が事業実施主体となっている補助事業の内容や直近の生乳需給について説明を行いました。

その後、新型コロナウイルス感染症拡大による学校休校に伴う学乳休止の地域ごとの状況や補償交渉の状況について、またプラスチックレスに伴うプラスチックストローの今後の取り扱い、縮小傾向に

ある販売店事業の状況や対策などについて活発な情報交換がなされました。



販売担当者情報交換会の様子（令和2年11月12日開催）

今年度は、製造技術体験発表会を次年度に延期したことをはじめとして活動が限定されておりますが、コロナ禍における全国農協乳業協会のあり方を模索しながら会員農協乳業の皆さんに情報発信を続けてまいります。

**北福岡工場
発**

酪農出前教室で北福岡工場は手作りバター教室

令和2年10月29日(木)に岩手県二戸郡一戸町鳥海小学校5年生、6年生を対象に岩手県牛乳普及協会主催の酪農出前教室が開催され全酪連北福岡工場も手作りバター教室に協力いたしました。

酪農出前教室とは平成19年(2007年)から毎年岩手県内の小学生を対象に酪農乳業関係者が協力して開催しており、乳牛や牛乳などについての勉強会、手作りバター教室など、時には酪農家の乳牛を学校に持ち込み、乳牛とのふれあいや、搾乳体験などを行い、酪農への関心と牛乳について理解して頂く活動です。

初めに、JA全農いわてによる出前授業、「乳牛について」、種類や特徴などの説明、生乳と牛乳の違いや味の違いなど試飲を交えながら1時間程授業を行いました。

つづいて、全酪連北福岡工場の職員による「手作りバター教室」を開催、生クリームをカップ容器に入れ、上下に振り、バターを作って試食する授業を行いました。

生徒や担任の先生、校長先生も一緒になって楽しく、一生懸命バターが出来るまでカップ容器を上下に振っていました。バターが出来るころには皆さん疲れていましたが、試食した時には「美味しい」「売っているバターと全然違って美味しい」など疲れを忘れバターの美味しさを味わっていました。

酪農出前教室は、今年も岩手県内多くの小学校から申し込みがあり、県北を担当している全酪連は6校の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により、開催が中止になった小学校もありました。鳥海小学校校長先生は「新型コロナウイルスの影響により色々な学校行事が中止となってしまったため、子供たちに良い思い出になるように」と酪農出前教室を申し込んだそうです。

今年も残りわずかですが、子供たちが楽しく美味しく学べるように全酪連北福岡工場も活動に協力して行きます。
(K.W)



仙 台
支所発

福島県牛乳普及協会主催 「牛乳・乳製品利用料理コンクール福島県大会」開催

福島市松川町の福島県学校給食会を会場とし、第41回牛乳・乳製品利用料理コンクール福島県大会が、10月27日(火)に開催されました。

コンクールには、県内の高校・専門学校・大学・一般の方々780名から786点の応募があり、当日は書類審査を勝ち抜いた6名による実技審査が行われました。審査員には、畑中料理研究所所長 畑中成純氏、公益社団法人福島県栄養士会副会長 中村啓子氏、一般社団法人福島県調理師会会長 川副憲雄氏、福島

県農林水産部畜産課課長 森口克彦氏、福島県牛乳普及協会会長 宗像実氏があたり、最優秀賞には、あさか開成高等学校の大内綾乃さんが考案した、「おらげのみそスイートポテト」が選ばれました。大内さんの作品は、牛乳とバター、自宅で育てたサツマイモを使用し、表面に自家製のじゅうねんみそと柚子みそを塗り、健康を意識して仕上げた作品となっています。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響が心配されましたが、大会を無事終えることができました。(S.Y)



▲ 最優秀賞の「おらげのみそスイートポテト」

仙 台
支所発

「オール福島デイルーショー」開催！

福島県乳牛改良推進協議会（会長 安齋利勝）主催によるオール福島デイルーショーが、10月28日(水)に本宮市の福島県家畜市場において開催されました。今回は新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、参加者の安全性を確保するよう様々な対応を取りながらの開催であり、参加者の皆さんの協力なくしては開催することができませんでした。

当日は25頭の愛牛が県内各地より集まり、審査員には（一社）家畜改良事業団 前橋種雄牛センター次長 石濱賢氏を迎え、未經産3部門、経産3部門の計6部門に分かれ審査が行われました。

各部厳正な審査の結果、見事グランドチャンピオンの栄冠には福島市の鈴木奨悟さん所有の「ヒルトンステージ ラスター ブラット ET」号が、リザーブグランドチャンピオンには磐梯町の足利秀忠さん所有の「バンダイデール ソロモン エランド」号が、準リザーブチャンピオンには福島市の鈴木奨悟さん所有の「ヒルトンステージ アルマーニ ユマーナ RED」号が選

ばれました。

本共進会開催にあたり、福島県をはじめ関係団体、各メーカー様からのご後援やご協賛を賜り、盛大に開催できましたことに心より感謝を申し上げます。(S.Y)



東京
支所発

「第82回全酪長野協議会」開催される

10月26日(月)に伊那酪農業協同組合（小松平一代表理事組合長）を会場に、第82回全酪長野協議会が開催されました。当協議会は長野県内の全酪連会員と全酪連東京支所で構成されており、酪農に関する中央及び地方の情報収集及び交換と酪農業発展のための相互啓発を目的としています。コロナ禍により、今回は全酪連東京支所と長野会場をオンラインで繋いだWeb会議方式で開催いたしました。

冒頭に柳澤宏会長（南信酪農業協同組合代表理事組合長）より『新型コロナウイルスの影響で組合間の交流も抑制されているが、近況確認と親睦を図るため、方策を考えて開催しました』と挨拶がありました。各会員からの近況報告に加え、新型コロナウイルス関連、組合運営や生産基盤維持の話など多くの意見交換が行われたと同時に3組合の懇親がより深まった会議となりました。（N.T）

東京
支所発

龍峡酪農業協同組合「家族親睦会」開催される

10月27日(火)に、龍峡酪農業協同組合（村松康広代表理事組合長）の家族親睦会が開催されました。

新型コロナウイルスが国内で発生してから龍峡酪農業協同組合としては初めて開催した組合行事です。参加前に体調確認と検温を行い、感染予防に注意して行われました。

朝の気温が10℃を下回り冬へと変わっていく季節感を覚えながらでしたが晴天に恵まれ、参加者17名でパターゴルフ大会が催されました。仕事内外の情報交換と近況報告をしながら楽しくプレーは進行。南アルプスを眺めながらの贅沢な景色の中で、久しぶりに親睦を深めることができた1日となりました。（N.T）



▲ 村松組合長挨拶

▲ ナイスイン！

▲ 表彰式と賞品授与

栄えある 秋の叙勲・褒章

政府は11月3日、秋の叙勲・褒章受章者を発表しました。

全酪連関係及び酪農関係からは、次の方々が受章の名誉に輝きました。心からお祝い申し上げますとともに、益々のご活躍をお祈りいたします。

旭日重光章

中野 吉實 氏

元 全国農業協同組合連合会 経営管理委員会会長
元 佐賀県農業協同組合 会長理事

旭日小綬章

稲葉 暉 氏

元 奥中山高原農協乳業株式会社 代表取締役社長
元 一戸町長

旭日双光章

山田 政晴 氏

現 西阿蘇酪農業協同組合 代表理事組合長
元 熊本県酪農業協同組合連合会 副会長理事

旭日単光章

畠山 勝一 氏

元 秋田しんせい農業協同組合 代表理事組合長

黄綬褒章

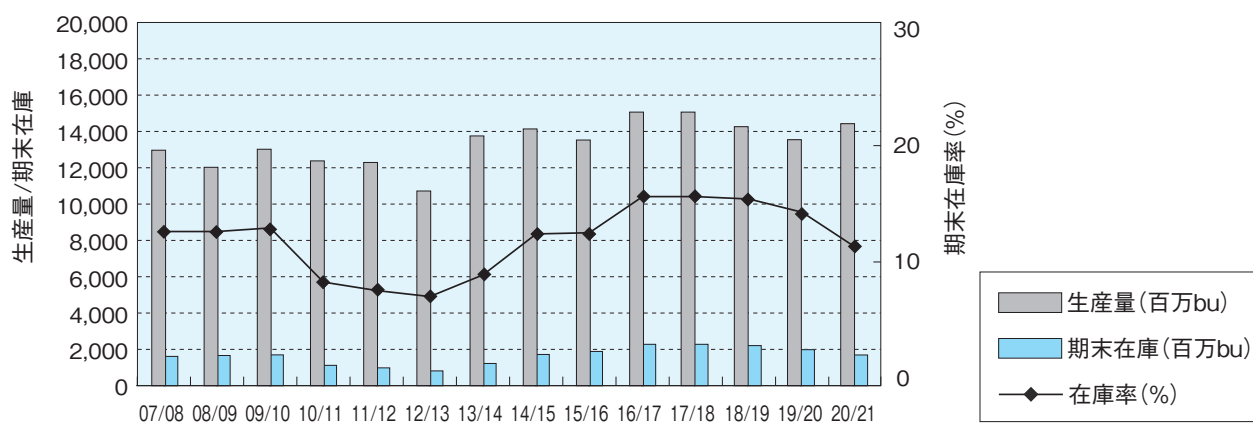
赤松 清助 氏

元 洲本市酪農農業協同組合 代表理事組合長
元 兵庫県酪農農業協同組合連合会 副会長理事
元 淡路島酪農農業協同組合 代表理事組合長

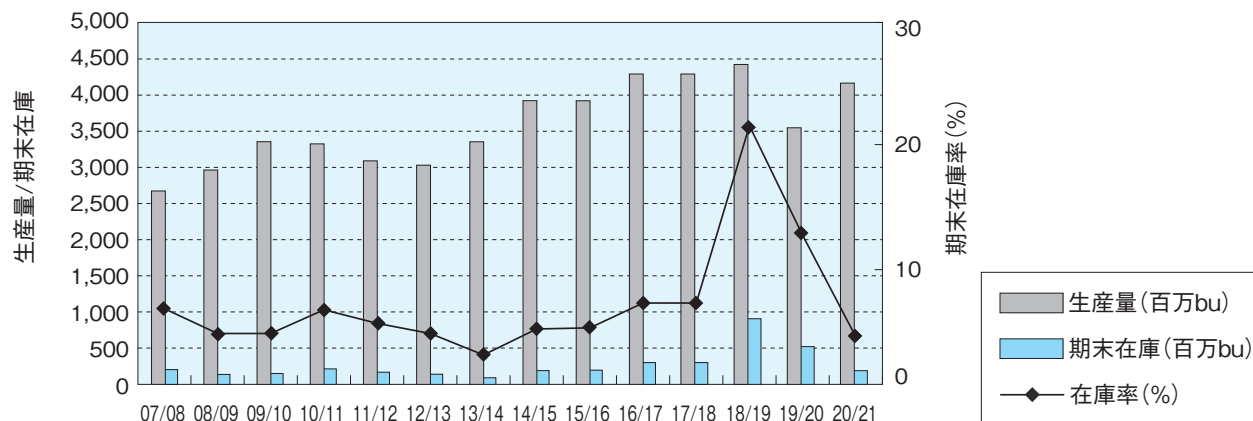


		19/20年産	20/21年産
11月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	89.7	91.0
	単 収(ブッシェル/エーカー)	167.5	175.8
	生 産 量(ブッシェル)	136億2,000万	145億700万
	需 要 量(ブッシェル)	138億8,700万	148億2,500万
	期末在庫(ブッシェル)	19億9,500万	17億200万
	在 庫 率	14.4%	11.5%
トウモロコシ 相場動向	欧米を中心とするコロナ再拡大、大統領選で民主党政権の勝利の雰囲気から株式や商品などが値を下げ、コーンにもつれて売りが広がったためシカゴ相場は390台に下落したが、南米の乾燥による影響懸念や週間輸出成約が事前予想よりも上回る結果になったことから再び上昇。11/10の需給予想ではさらなる単収の引き下げによりシカゴ定期は420¢まで値を上げていく。また中国のコーンの買い付けはまだまだ続いているため、しばらくシカゴ相場は堅調に推移していく見通し。		
大豆粕相場動向	中国の需要は引き続き旺盛で、中国向け輸出成約と南米の天候不安を背景にシカゴ相場も堅調に推移している。国産大豆粕は搾油量が回復傾向にあるものの原料輸入大豆高に伴い強気の相場展開となっている。		
槽糠類	【一般フスマ】 逼迫傾向は続いているものの、配合割合調整と輸入ふすまの使用により需給は安定しつつある。1月から小麦価格の値下が見込まれており年末の挽砕量が減少することが懸念される。		
	【グルテンフィード】 国産はスターチメーカーは12月の早期に定修に入ると見られており、年末は非常に逼迫する見込みである。不足分は中国産の輸入で賄っているものの、現地価格高により価格競争力は無い状況にある。		
海上運賃	海上運賃は11月現在、軟調に推移している。昨今関係が悪化している中国と豪州との間で石炭の輸入が急減しており、中国政府による低炭素化に向けた脱石炭及び国内炭鉱業者を守る姿勢が如実に表れ始めていることが、フレートを下げている大きな要因となっている。しかし、原油相場については米ファイザー社によるコロナワクチン試験結果が90%以上有効だった報道を受け経済正常化の期待感から堅調に推移しているため注意が必要。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



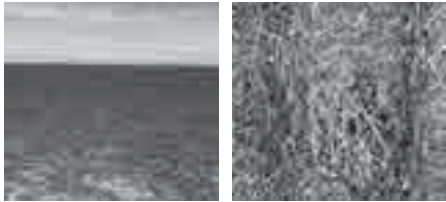
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和2年11月

北米コンテナ船情勢	中国及びアジア諸国から米国向けコンテナ輸量は製造業の部品や年末商戦向けの貨物を中心に急増しています。この貨物の増加は米国各港で混乱を引き起こしています。アメリカ貿易の要である、ロサンゼルス港及びロングビーチ港の発表によると今年7-9月の両港でのコンテナの取り扱い量は四半期としては過去最高を記録しています。このためターミナルでは急増したコンテナのハンドリングが追いついておらず、最近では寄港できずに沖合で滞船する本船が増えており、スケジュールの遅延が発生しています。今後冬場に入るため例年、荒天によりスケジュールが乱れやすいシアトル港、タコマ港、バンクーバー港から出るPNW発の牧草だけでなく、ロサンゼルス港及びロングビーチ港を含むPSW発の牧草のスケジュールにも注視が必要です。またアジア発米国向け航路の運賃は非常に高い水準を維持していることから、早期に空コンテナをアジア向けに手配するため、船社によっては米国で輸出用の貨物を受け付けず、空のままコンテナをアジアに送り返す動きも見られています。このような背景から、船社によっては北米発日本向け貨物に対する大幅な運賃値上げのGRI(海上運賃一斉値上げ)をアナウンスしており、こちらの動向にも注視が必要です。
ビートパルプ	【米国産】 主産地では収穫作業は後半に差し掛かっています。ミシガン州では収穫は折り返しを迎えています。10月にいくつかの降雨があったため収穫作業に若干の遅れが出ています。単収は例年よりも高く26.3-27.2t/エーカーとなっています。糖分含量の予測につきましては18%となっており過去5年平均より若干高めで上々な品質となっています。ノースダコタ州東南部ミンダック地区では収穫作業は終了しています。生育期の早魃とビートの病気の影響により、単収は22t/エーカーから23t/エーカーと過去5年間の平均に比べおおよそ3t/エーカーほど下回っています。糖分含量は過去5年の平均に比べると高く17%ほどになると予想されています。ミネソタ州中南部サザンミネソタ地区では冬季を前に収穫を終えています。単収は、例年よりも2.7t/エーカーほど多い26.8MT/エーカー、糖分含量は、過去5年平均よりも1ポイント高い17%程度と予想されています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地コロムビアベースンでは4番刈の収穫を終了しています。南部では5番刈の収穫がされていますが、気温が低く十分に乾燥できないため、これらは輸出向けでなく内需向けで流通されます。4番刈については、収穫時における山火事の煙の影響で乾燥に通常よりも時間を要したことから、多くのアルファルファで色目の脱色したブリーチが混入しており、且つドライな品質のものが発生しています。
	【オレゴン州】 南部クラマスフォールズでは9月下旬より4番刈の収穫作業が開始され、現在ほとんどの生産者で20年産の生産を終えています。3番刈の品質は、収穫時期の後半に当たる9月上旬頃から産地でも山火事の煙が立ち込めましたが、幸い煙はそれほど濃くならず、品質に大きな影響はありませんでした。他方で収穫時期に昼夜の寒暖差があまりなかったことから、夜露が十分に発生せず一部でドライな仕上がりととなっています。中部のクリスマスバレーでは20年産の最後となる3番刈の収穫が終了しています。9月中旬頃から収穫が開始され、色目は綺麗なもののベーリング時に夜露の発生が少なかったことで、ややドライな仕上がりのアルファルファが散見されています。  ▲ 左:3番刈の収穫を終えた圃場 10月中旬 クリスマスバレーにて 右:4番刈のアルファルファ 10月中旬 クラマスフォールズにて撮影
	【カルフォルニア産】 南部インペリアルバレーでは8番刈、生産者によっては9番刈の収穫が行われています。天候も冷涼になっていることから分析値は回復し上級品も一部発生しています。北部ディクソン地区では一部の生産者で6番刈の収穫を行っています。多くの生産者において5番刈で20年産の生産を終えています。20年産は1番刈、2番刈では色目がきれいな良品が生産されましたが、湿気が高かった3番刈、収穫後期から山火事の煙の影響が出た4番刈で、色目の悪くブリーチが混じった品質が多く発生しています。
チモシー	【米国産】 主産地であるコロムビアベースンでは2番刈の収穫作業が終了しています。2番刈は収穫期の天候が安定していたことから、作況は例年並みとなっています。ペットや馬向けといった米国内需および海外からの馬向けの引き合いは強く、2番刈の相場は1番刈同様19年産に比べ上昇しています。
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジでは2番刈の収穫を終えています。19年産で雪害の影響を受けた一部の生産者で例年よりも早い8月下旬から収穫を開始しましたが、多くの生産者が単収を期待し9月の第3週から収穫を開始しました。一部で上級品が生産できたものの、収穫期に降雨に見舞われた地域もあったため2番刈は中級品中心の作況となっています。
スーダングラス	主産地であるインペリアルバレーでは20年産の収穫が終了しています。19年産に比べ作付面積が減少したこともあり、産地周辺の圃場では売りに出されているストックが見られず、良品を追加購入することは難しい状況です。
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 20年産の収穫は終盤を迎えており、産地では5番刈、生産者によっては6番刈の収穫が行われています。気温が低くなっていることから、単収は少なく中級品中心の発生となっています。
ストロー類	主要産地のウィラメットバレーでは、アニユアル種、ベレニアル種のライグラスストローとフェスクストローの収穫が終了しています。収穫期間中は好天に恵まれ良品が発生しています。産地相場は繰り越し在庫のなかった輸出業者からの需要が強く昨年よりも高値で推移しております。
オーツヘイ／ウィートストロー	【西豪州産】 9月中旬から収穫が開始され、現在は終盤を迎えています。10月下旬も引き続き天候に恵まれ理想的なコンディションのなか収穫が行われました。収穫期に一部で少量の降雨があったものの、作況に大きな影響なく20年産は全般見た目、分析ともに良好で上級品の発生が期待されています。
	【南豪州産】 全ての地域で刈り取りを終えており、順次ベーリングが行われています。収穫期に断続的な降雨があったため、雨当たり品が多く発生しており20年産は非常に厳しい作況となっています。一方で晩生を栽培する一部の地域では降雨被害は軽微なものとなっており、ますますの品質のオーツヘイが生産されています。南豪州は地域と降雨状況によって品質にバラつきが出ています。
	【東豪州産】 10月末に降雨があったものの、現在産地ではベーリング作業が本格化しています。南豪州同様、収穫期に複数回降雨があったため地域によって降雨被害に差が出ています。上級品の発生は限定的になることが予想されています。



乳牛産地情報

令和2年12月1日現在

価格状況 ▲.....強含み ▼.....やや強含み →.....横這い ⇐.....やや弱含み ↓.....弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	38~45	→	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で98.3%、累計で101.4%、苫小牧管内月計で99.2%、累計で101.2%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月上旬分娩が中心となります。11月の同地域の乳牛市場の相場は、やや強含みの展開となりましたが、12月は出場頭数が増える予想されることから、軟調な展開になると予想されます。初妊牛の品質、腹条件の違いにより相場の動きも異なりますが、中クラス以上につきましては横這いで取引されるものと思われます。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~45	→	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.5%、累計で101.1%、中標津管内月計で101.0%、累計で102.2%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2~3月上旬分娩が中心となります。11月管内の乳牛市場の相場は、やや弱含みとなる動きをみせましたが、中~上クラスの初妊牛は高値で取引されていたことから、12月の庭先購買価格は横這いで推移するものと思われます。腹別では前月に続いて雌雄選別腹の引き合いが強く、庭先購買価格もやや強含みとなるものと思われます。資源状況については、年末にかけて十分に確保できるものと思われます。経産牛も初妊牛価格に合わせてやや強含みとなることが予想されます。
	初妊牛	68~78	→	
	経産牛	43~50	⇐	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~47	→	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.7%、累計で103.3%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2~3月上旬分娩が中心となります。11月管内の乳牛市場は、10月末の市場相場が高騰したこともあり、やや弱含みに推移しましたが、中クラス以上の牛につきましては横這いに推移するものと思われます。年末に向けて初妊牛を販売する農家も多く、出回り頭数は増加するものと思われますので、例年並みの頭数は確保できる状況となっております。腹別にみると、F1腹に比べると、雌雄選別腹が減少傾向にあります。また、道内酪農家における一定の初妊牛需要が見込まれることもあり、再度相場が高騰する可能性もあります。
	初妊牛	68~78	→	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	38~46	→	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.3%、累計で100.7%、北見管内では月計で105.4%、累計で104.4%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2~3月中旬分娩が中心となります。年末にかけて乳牛市場における出品頭数が増加すると予想されますが、道内需要が活発なことやまた、都府県の補助事業(加速化事業)を活用した導入も重なり、12月の初妊牛価格はやや強含みで推移するものと思われます。特にF1腹の需要が伸びており、中クラス以上の牛は引き合いが強い状態となっております。初妊牛価格の影響もあり、経産牛もやや強含みで推移すると思われます。
	初妊牛	68~78	⇐	
	経産牛	38~50	⇐	
道内総括	育成牛(10-12月令)	38~47	→	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は102.4%、累計で102.5%の実績となっております。道内では、順調に生乳生産量が伸びていますが、今年産グラスサイレージの使用が始まり、地域によっては1週間程度の遅れが発生したため、栄養価が低いことによる生産への影響が危惧されています。2月分娩中心となる12月の初妊牛動向について、例年、頭数多く出てくる時期でもあるため、横這い~軟調に推移するものと予想されます。しかしながら中クラス以上の牛については、道内外の需要が見込まれることから堅調に推移するものと思われます。腹別の資源状況については、引き続き雌雄選別腹が減少傾向にあります。今後とも相場動向に注視しながら庭先選番購買による優良な搾乳牛を供給して参りますので、購買計画がございましたらお早目に弊会担当者までご連絡いただきますようお願い致します。
	初妊牛	68~78	→	
	経産牛	40~50	→	

今月の表紙



令和2年12月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 12月号 No.663

●編集・発行人 白鳥建樹

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 全酪連会報も今年最終号となりました。
ご愛読いただきました皆様、また取材、寄稿等発行に当り多大なるご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。
- 今年は新型コロナウイルスの脅威に世界中の人々が苦しめられ、社会環境の変化に戸惑いを感じながらの生活を送った1年でした。
- 来年の干支は丑！
酪農界にとって明るい年になることを期待して新しい年を迎えましょう。
来年もよろしくお願い申し上げます。

全酪連会報 総目次 (2020.1～12月号)

●1月号	新年の御挨拶／ 全国酪農協同組合連合会 代表理事会長 砂金基太郎 2
	農林水産省生産局長 水田正和 4
	酪農とのかけはし／澤西 良和さん(伊那酪農ヘルパー組合酪農ヘルパー) 6
	酪農業に対する理解醸成活動報告(後編) 8
	令和元年度全酪連会員職員研修会(前編) 10
	日本酪農見て歩紀／大井牧場 北海道雄武町 12
	酪農トピックス／全国大会発表者 千葉澄子さん語る 「ワンチーム」の酪農経営(札幌)ほか 15
	広告／酪農セミナー2020・ワークショップ2020 開催のご案内 20
	酪政連活動報告 21
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和元年12月) 22
	栄えある春の叙勲・褒章 24
	今月の表紙／じいちゃんの孫ヘルパーです。 25
	今月のこどもギャラリー／郡山市立行健第二小学校(東北)2年 岩谷萌衣さん 26

●2月号	若手後継者の本音／林鮎美さん 2
	令和元年度全酪連会員職員研修会(後編) 4
	品質保証部だよりいま給与した配合飼料、古くなっていませんか? 6
	日本酪農見て歩紀／人見牧場 栃木県那須塩原市 8
	酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和元年度 経営者研修会・意見交換会」開催(本所)ほか 11
	広告／酪農セミナー2020・ワークショップ2020 開催のご案内 14
	令和2年度各地域酪農青年女性会議酪農発表大会 開催のご案内 15
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年1月) 16
	人事異動 18
	今月の表紙／あら、新入社員? 19
	今月のこどもギャラリー／筑前町中津屋幼稚園(九州)3歳 湯浅成菜さん 20

●3月号	酪農とのかけはし／酒井眞司さん(株式会社酒井鉄工) 2
	令和元年度全酪連監事・役員職員研修会(前編) 4
	企画管理部だより／令和元年度決算に向けて 11
	日本酪農見て歩紀／木目澤牧場 福島県泉崎村 14
	酪農トピックス／全国酪農青年女性会議・日本獣医生命科学大学学生 との「意見交換会」開催(本所)ほか 19
	作品募集のお知らせ 21
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年2月) 22
	今月の表紙／整列 24
	今月のこどもギャラリー／神埼市立千代田東部小学校(九州)2年 本村蘭さん 25
	広告／「第49回 全国酪農青年女性酪農発表大会」開催のお知らせ(in仙台) 26

●4月号	若手後継者の本音／風間健太さん 2
	令和元年度 全酪連監事・役員職員研修会(後編) 5
	総務部だより／万全の体制でしょうか? 11
	日本酪農見て歩紀／宗像牧場 北海道別海町 16
	酪農トピックス／全国酪農飼料(株)東海工場、衣浦埠頭株式会社 「岐阜農林高等学校 SPH事業酪農研修会」開催(名古屋)ほか 19
	全酪連2020年のニューフェイスが集結! 21
	酪政連活動報告 22
	お知らせ／畜産事業者のみなさまへ 23
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年3月) 24
	今月の表紙／《カウチソファ(cow 痛ソファ)》cowでは無くbullだけどね 26
	広告／GOOD START PREMIUM 27
	今月のこどもギャラリー／倉敷市立第二福田小学校(西日本)3年 小泉泰雅さん 28

●5月号	酪農とのかけはし／石川毅さん、角田祐子さん(島根中酪株) 2
	日本酪農見て歩紀／阿部牧場 宮城県白石市 4
	酪農トピックス／「第49回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」 が開催される(東京)ほか 7
	新型コロナウイルスの感染者が確認されたら! 9
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年4月) 10
	第49回全国酪農青年女性酪農発表大会 開催延期のご案内 12
	広告／酪農家経営管理支援システム(DMSシステム) 12
	今月の表紙／わたしだって できるもん 13
	今月のこどもギャラリー／北見市立端野中央保育園(北海道)5歳 片岡みのりさん 14

●6月号	若手後継者の本音／鷺岡輝さん 2
	日本酪農見て歩紀／(株)バファーム 長野県伊那市 4
	酪農トピックス／東毛酪農協同組合における コロナ禍に対応した消費拡大のための牛乳無償提供!(東京) 7
	人事異動 7
	新型コロナウイルス関連 支援施策 8
	栄えある春の叙勲・褒章 10
	日本の牛乳を救うプラスワンプロジェクト 11
	省力化進むオランダ酪農に見る、日本酪農魅力アップのヒント 12
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年5月) 14
	酪農部だより／全酪連ギフト商品について 16
	今月の表紙／いっぱいおいしい牛乳を出してね 19
	今月のこどもギャラリー／認定こども園 慈光第二幼稚園(東北)6歳 星さくらさん 20

●7月号	酪農とのかけはし／池野一昭さん(株式会社 佐渡乳業) 2
	第71年度(令和2年度)事業計画案 4
	日本酪農見て歩紀／渡邉牧場 三重県鈴鹿市 8
	酪農トピックス／中部酪農青年女性会議主催 「農林水産省 東海農政局長への牛乳贈呈式」の開催(名古屋) 11
	父の日に牛乳を贈ろう!キャンペーン&牛乳無償贈呈 12
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年6月) 14
	酪農部だより／全酪連ギフト商品について 16
	今月の表紙／宿題のご褒美にショウデビュ!! 19
	広告／GOOD START PREMIUM 20

●8月号	若手後継者の本音／大浦健太さん 2
	第71年度(令和2年度)通常総会開催される(概要) 4
	食べて応援 生産者インタビュー 6
	父の日に牛乳を贈ろう!キャンペーン 11
	購買生産指導部だより／令和元年集計結果DMSシステム 12
	日本酪農見て歩紀／堺市畜産農業協同組合 大阪府堺市 14
	全酪連狭山工場からマリンフード(株)埼玉工場へバトンタッチ 17
	酪政連活動報告 18
	人事異動 19
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年7月) 20
	酪農部だより／全酪連ギフト商品について 22
	今月の表紙 25
	広告／GOOD START PREMIUM 26

●9月号	酪農とのかけはし／元木良子さん(学校法人野幌キリスト教学園のつばろ幼稚園) 2
	第71年度(令和2年度)通常総会開催される(詳細報告) 4
	酪農トピックス／「伊那酪農協青年部家族懇親会」開催される(東京) 7
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年8月) 8
	農林水産省発 令和2年7月豪雨による農林水産関係被害への支援対策 10
	今月の表紙／ベッドメイキングは、オレに任せろ!(みんなはしっかり食べてねエー) 11
	広告／GOOD START PREMIUM・SOYCHLOR 12

●10月号	若手後継者の本音／木曾勝己さん 2
	日本酪農見て歩紀／有限会社日本酪清水町協同農場(北海道十勝清水町) 4
	酪農トピックス／栃木県酪農協同組合黒磯青年部 「那須塩原市牛乳の日」PRI(東京)ほか 7
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年9月) 9
	今月の表紙／そうじは、まかせろ!! 11
	広告／GOOD START PREMIUM・SOYCHLOR 12

●11月号	酪農とのかけはし／神林 明義さん(東海農政局 生産部畜産課 課長) 2
	酪農トピックス／長崎県酪連主催「牛乳・乳製品利用料理コンクール」が 開催される!!(福岡) 5
	日本酪農見て歩紀／有限会社金神酪農(岩手県遠野市) 6
	酪政連活動報告 9
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年10月) 10
	酪農部だより／全酪連ギフト商品について 12
	今月の表紙 15
	広告／GOOD START PREMIUM・SOYCHLOR 16

●12月号	若手後継者の本音／戸澤慧さん 2
	酪農部だより／本会「ゴータース」の製造拠点が変わります! 4
	購買生産指導部だより／日本版酪農標準作業手順書「デリーナVi」のご紹介 5
	日本酪農見て歩紀／外牧牧場 群馬県高崎市 6
	酪農トピックス／【全国農協乳業協会】「令和2年度秋季研修会」及び 「販売担当者情報交換会」の開催(本所)ほか 9
	栄えある秋の叙勲・褒章 13
	原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和2年11月) 14
	今月の表紙 16
	総目次 17
	広告／GOOD START PREMIUM・SOYCHLOR 18

初乳粉末製品

GOODSTART PREMIUM

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに、
グッドスタートプレミアムが皆さんのお役に立ちます。

○作業性は「3楽」

～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。
溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末

製品紹介サイトはこちら



牛用配合飼料

SOYCHLOR

ソイクロール

商標登録出願中

～ソイクロールで移行期を乗り切ろう～

ソイクロールの特長

エネルギーコントロールのしやすさ

乾乳期の過剰なエネルギー給与は、様々な周産期疾病の一因とされます。ソイクロールは、
クローズアップ期の代謝タンパクを充足させながらエネルギーのコントロールがしやすい飼料です。

分娩後の代謝を考えたミネラルバランス(DCAD)

ソイクロールはDCADを適正化させる塩素を強化しつつ、不足しがちなマグネシウムとカルシウム
も配合しました。乾乳期のDCADを整えることによって、分娩後の良いスタートを切りましょう。

給与量

●給与推奨量 クローズアップ期にて1頭当たり600g～1kg/日

※詳しくは飼育スタッフへ。

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765 仙台支所 022(221)5381 名古屋支所 052(209)5611 福岡支所 092(431)8111
釧路事務所 0154(52)1232 北東北事務所 019(688)7143 大阪支所 06(6305)4196 南九州事務所 0986(62)0006
帯広事務所 0155(37)6051 東京支所 03(5931)8011 中四国事務所 0868(54)7469
道北事務所 01654(2)2368 北関東事務所 027(310)7676 近畿事務所 0794(62)5441
根室駐在員事務所 01537(6)1877 栃木駐在員事務所 028(689)2871 三次事務所 0824(68)2133

